

かしわ

そつ たく どう し
啐 啄 同 時



No. 15 平成29年3月13日 ろう学校のおひな様

校長 北村 耕一
平成28年度も残すところ2週間余となりました。今年度も横須賀市立ろう学校の教育に対して、ご理解・ご協力をいただきました。また、数多くの温かなご支援に対しても感謝申し上げます。

3月の「かしわ」には、各学部・担当者に今年度の振り返りを書いていただきました。この振り返りを次年度に活かしていきたいと思います。

さて、今年は「酉年」ですね。「酉＝鳥」ということから、ある先輩から教えていただいた話を紹介したいと思います。

その先輩は寺社の歴史や仏教等宗教に造詣が深く、禅宗の言葉である「そつたくどうし啐啄同時」の話を私たち後輩にしてくださいました。



辞書で調べると「『そつ』は『啐さい』の慣用音。鳥の雛ひながかえろうとするとき、雛が内からつつくのを『啐』、母鳥が外からつつくのを『啄』という。①禅において、師家と修行者との呼吸がぴったり合うこと。機が熟して弟子が悟りを開こうとしているときにいう。②得難いよい時機」と書かれています。

この話を聞いた時に、何事にもタイミングというものがあり、後輩(雛)が次の一步を踏み出す時(卵から殻を破って誕生する時もそうだと思います)に、その一步を促すことを先輩(母鳥)は行ってくれるのだと思いました。

3月の卒業式は「巣立ち」のイメージが強いと思います。これも雛が母鳥のもとを離れ、飛び立っていくことからきているのではないのでしょうか。そして新しい場所で生活を始めると思います。これは「卵の中の世界」に入るともとれます。そして卵の中で成長して「殻を割って」出てくることになるのです。

子どもの新しい姿の誕生を見守るのは、保護者や私たち教職員だと思います。子どもの「卵の殻」については、これから破る機会が何回も生じると思います。その都度、子どもの成長とタイミングを見計らって殻を破る役割を果たすのは、保護者や教職員をはじめとする子どもと関わる人たちです。

「啐啄同時」の言葉を心に留めて、無限の未来を持つ子どもたちを見守っていききたいと思います。

「今年度を振り返って・次年度に向けて」

幼稚部

教諭 鈴木 由枝

今年度の幼稚部は、1名の新入児を迎えてスタートしました。入学式は不安で胸がいっぱいだったことでしょう。幼3の子ども達2人にとっては、初めてできた年下の友だちです。嬉しいけれど、どんな関わり方をして良いのか、戸惑いながらも、お兄さん、お姉さんになったという喜びはあふれていました。



幼稚園では、遊びや活動の経験を通して、ことばを身につけることを基本としてきました。しかしこれは、学校と家庭との連携がなくては成り立ちません。ご理解ご協力いただき、感謝申し上げます。

いつの頃からか、朝、顔を合わせた瞬間、お互いに笑顔で駆け寄る場面や、「どうしたの？何して遊びたい？」と視線を下げ、顔をのぞき込みながらやり取りをする様子などから、子ども達どうしの繋がりが、時間の流れと共に深まっていたことを感じます。平成29年度、在籍幼児は1名となりますが、これまで同様、保護者の皆様にご協力いただきながら、活動に取り組んでいきたいと思ひます。今後ともよろしくお願ひいたします。

小学部 総括教諭 鈴木 紀子

児童も先生も個性に富んだ仲間の集まりで、楽しい毎日でした。小学部の目標である「生き生きと活動する」姿が見られ、笑ったり、泣いたり、怒ったり…廊下や教室は、活気に溢れていました。行事もたくさん経験する中で、上級生がリーダーシップを取る場面が多く、着実にその力をつけてきたように感じます。下級生もそれに見習って、次に続く力が育ってきています。3班に分かれた活動の中で「友達のことを考えて行動する」ことも身につけてきました。みんなで協力して、何かを行うことが当たり前のようになってきていることは大きな成果です。

学習にも前向きに取り組んでいますが、わからないことを「わからないから、もう一回教えて」と言う場面が少ないのが気になります。わかることやできることが増えるうれしさを もっと味わって欲しいと感じます。

「感じたことや考えたこと」がたくさんあった一年間



でした。子どもたちからそれが伝わっていたでしょうか。「伝える力」もさらに伸びるように、新年度も取り組んで行こうと思ひます。一年間、ご理解とたくさんのご協力ありがとうございました。

中学部 教諭 勝 康雄

新入生1名を迎えてスタートした中学部、といひても学部の上級生がいないので、マパースで過ごせた反面、お手本がない中での中学部生活でした。小学部とは違うことがたくさんあり、戸惑ったことが少なくなかったと思ひます。また、生徒会活動で担当したことが多かったので、行事では疲れが倍増しました。でも、それが財産となり、次年度以降に入学してくる下級生の良いお手本となるでしょう。

部活動も部員1人だけの活動でしたが、ツツキが続く回数がどんどん増え、頑張れば上手になることを体感することができました。



次年度は宿泊行事がありませんが、遠足や神体連は高等部と一緒に取り組みます。そして、将来に向けた学習として、新たに職場体験を実施する予定でいるので、新しい自分を発見してほしいです。

日々成長する中学部でありたいです。

高等部 総括教諭 渡邊 豊

高等部は、男子2名が力を合わせ、無事に一年を乗り切ることができました。春の遠足に始まり、神体連、宿泊キャンプ、ふれあい運動会、書き初めや百人一首大会と続く行事。更に、生徒会や委員会の仕事。確かに教師の力を借りる場面も多く、中学部の生徒にも随分助けてもらい、幼稚園や小学部の子ども達の目には、まだまだ頼りない先輩に映るかも知れませんが、間違いなく彼らはひとまわり大きく成長したように思ひます。

日常の挨拶、儀式や行事での言葉などにも自信が同えるようになりました。そして、何より彼らの良いところは、周りの人に対する優しさと温かい気持ちだと思います。先日の生徒会役員選挙では、Iさんが次期生徒会長として信任され、現会長のKさんからバトを受け取ることになりました。来年も中学部の生徒と協力しながら、この学校を大いに盛り上げ、後輩たちの良い手本となり、頑張ってくれることを願っています。

乳幼児相談

総括教諭 田中 康次

今年度は、時期により流動的ではありますが2歳児2名、1歳児5名、0歳児5名のお子さん・保護者に対応してまいりました。

乳幼児相談は、ここ数年でつくりあげてきた医療等関係機関とのネットワークの中で「お子さんに応じた発達支援と保護者支援」を行うことが中心的な活動になります。

お子さんの支援をしながら保護者の方々と学習会を行ったり聴力測定をしたりすることで個別学習は進められます。

1月下旬にCORという検査機器が入荷しました。今まで以上にお子さんに興味をもって取り組んでいただけるものと思います。



次年度に向けて、お子さんの数も多いので、お子さん同士の関わり、保護者の方々同士の関わりもご相談のうえ模索してまいりたいと考えています。

幼稚部さんとの縦のつながりを工夫していくことも次年度の課題です。

通級指導

総括教諭 石崎 龍介

今年度の本教室は、新入級の15名を迎えて、小1から中2までの50名でスタートしました。この中には、聞こえにくさをもつ難聴の子どもたちが21名いるので、昨年度から「聞こえグループ学習会」（障がい認識の学び）を始め

音や聞こえの仕組みや、自分の聞こえにくさを実験や実演を通して理解を進めた前期。そして後期は、本校の卒業生でことばの教室の先輩でもある大学生3年生 Sさんの「わたしのこれまでと、これから」という講演から始まりました。

子どもたちの感想からは、デフピックでの夢を実現したことへの感動だけでなく、「出会いを大切に感謝の気持ちをもつ」「困ったら自分から動かなくては」「将来への不安が減った」など貴重な気づきもありました。この事をきっかけに、自分の困り感を出し合い、その課題をどう解決していくか話し合いを進めています。

通級教室には中学生や一側性・軽度難聴への指導・支援のあり方・難聴だけでも問題が山積していますが、子どもたちのこうした学びの姿に励まされ、来年度にどうつなげようかと私たちも検討し始めているところです。

1月・2月の行事の様子を紹介します

マリパークを見学して

教諭 岩野 恵美子

お天気に恵まれ、1月24日（火）に水族館「油壺マリパーク」に行ってきました。

残念ながらR君とNさんは欠席でしたが、たんぽぽ組のRさんをご両親・先生達と一緒に行きました。幼稚部では校外行事の際に、幼児が『隊長役』を担当しています。今回の隊長役はRさんで、初めてのことにとてもワクワクしていて嬉しそうでした。

三崎口駅に集合し、朝の会をした後、バスに乗ってマリパークへ向かいました。隊長のRさんは、「並んでください」「6人います」「マリパークに出発」「(バスの中は)お話ししない」などと皆に言うことができました。

マリパークでは、まず「イカ・アサのショー」を見ました。アサのショーでは、Rさんが「3+5」の問題を出しました。アサは「8」を選び、「当たり」と言って喜んでいました。イカのジャンプや鳴き声に驚いたりもしました。

こどもまつりを開催して

教諭 野田 学

2月17日（金）の3・4校時に『こども祭り』を行いました。今年の目標は「みんなで楽しく、みんなで協力」です。冬休み明けからグループに分かれ、取り組んできました。始めのころはグループで「幼稚部さんも楽しめるお店って、どんなお店かな」と試行錯誤を重ねていました。話し合っって決まったのは「ゴムでっぼう」「だるまおとし」「リトボックス」「アクセリ屋さん」の4つです。

こどもまつり本番は、幼稚部さんも全員参加することができ、他学部の生徒や、多くの保護者の方も参加していただきました。

「ゴムでっぼう」のお店は様々なキャラクターを使った的を用意したり、タイムリットを設定したり、点数で順位を作るなどの工夫があり、大人まで楽しんでいました。

「だるまおとし」のお店は、普通のだるまおとしだけでなく、大きなブロックを積み上げてバットやボールでブロックを崩す、特大だるまおとしなどがあり盛り上がりました。

「リトボックス」は、女子児童が箱を集め、色鉛筆や折り紙でかわいくデコレーションをして、箱の中に秘密のお土産を入れてあり、女子に大人気でした。

「アクセリ屋さん」では、懐かしのプラ板やリボンで作った髪留め、最近流行っている輪ゴムで作るアクセリ（ファルム）などが用意されていて、まるで休日の商店街の様でした。

お客さんが来店すると子どもたちは張り切って取り組んでいました。最後は自分たちのお店をお互いに見学して楽しみました。目標だった「みんなで楽しく、みんなで協力」は達成できたと思います。参加していただいた皆様、ご協力ありがとうございました。



その後「カサガニ・タイ・フグ」などを見て、大水槽で「ギョリイ・サメ」「魚の餌付け」などを見ました。Rさんはずっと楽しみにしていた「サメ」が見れてとても満足していました。美味しいお弁当を食べて、最後に寄り添って寝ている「かわうそ」も見ました。Rさんは「かわいいね。」と言って、ずっと見とれていました。



次の日、学校で振り返りをしました。Rさんは、アソガDJをしている様子を絵に描き、「楽しかった。また行きたい。」と言っていました。

小学部の全校授業研究会

総括教諭 渡邊 豊

1月25日（水）、川島先生による、今年度2回目の「全校授業研究会」（略称：全校研）が行われました。全校研は、教師全員で研究授業を見て、それをもとに話し合いをするもので、教師の指導力向上を目的としています。川島先生は、小学部5年生の社会科で、「くらしを支える情報」という内容の授業を行いました。

当日は、子どもの緊張感を考慮して、教室には最小限の教師が入り、残りはモニターを通して見学することにしました。川島先生は、授業前の昼休みから、児童と一緒に楽しく遊んだり話したり、普段どおりの気持ちで授業を受けることができるように配慮し、雰囲気づくりもしっかりとされていました。

授業では、身の回りにあるテレビ・新聞・雑誌・広告等を例に挙げながら、情報の活用の仕方を変えて大分分かりやすく丁寧に指導されており、児童もきちんと発言し、自分の言葉で答えることができました。情報という難しいテーマを理解させ、考えさせるために、色々な工夫や様々な資料、行状等も準備されており、とても参考になりました。研究協議会でも活発な意見交換が行われ、有意義なものとなりました。

